2009 年度

GNC 活動報告

平成 22 年 3 月

GNC
Japan
Global Network for Coexistence

人づくり事業

エコ教室

第 1 回エコ教室（バヤンチャンドマン村） バヤンチャンドマン村民

- 実施日：9 月 7 日
- 実施場所：モンゴル国立技術専門学校（バヤンチャンドマン村）
- GNC 側：宮木・矢野・荻原・坂田・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ・タミル
- 留学生：テゲシェー・デルメ
- 青年海外協力隊：篠崎・牛嶋
- BCH 村のみなさん計 60 名（村長・バグ長・役場職員・村民・子どもたち）
- アニメ「木を植えた男」上映。 GNC 紹介。
- GNC 苗畑見学。

熱心に聴き入る村民のみなさん

ハウス見学　　2009 年導入した点滴システム見学

昨年のツアーで約束したとおり、バヤンチャンドマン村民を対象に初めてのエコ教室を実施することができました。直接　村民のみなさんとふれあうことで、2010 年から実施予定の村の緑化に向けてのよりよい協力体制を築くことができたように思います。

GNC エコ教室参加者の感想

青年海外隊 環境教育隊員　篠崎祐士さん

今回、私は GNC エコツアーの全日程に参加することは適いませんでした。しかしながら貴重な体験と、私のモンゴルでの活動にあたり、多くの大切なことを学ぶことが出来たと思います。

その中で一番参考になったことは、GNC の活動が現地スタッフとの深い信頼によって繋がっているということです。代表の宮木さんをはじめとする GNC スタッフの方々が、長年に渡り築き上げてきた信頼関係に大変感服致しました。この関係は、モンゴルに対する只ならぬ愛情と尊敬、そして相互理解を重んずる気持ちの表れだと思います。

国際協力の世界では援助側の一方通行に終わる協力というものも往々にして起こり得ます。そこには短い期間で結果を出さなければならない制度としての欠陥や、現地の人とのコミュニケーション不足といったローカルな問題も隠れています。しかしながら GNC の活動はこの点において、「共存」という組織理念に基づき見事なまでに、年月をかけ、本当に役立つ国際協力を実現していると感じました。

協力隊員としての私の活動は 2 年間と限定されたものであります。現地の問題の大きさから考えると、これは決して充分な期間ではなく、正直何が出来るのか不透明ですらあります。しかし、GNC の活動を参考に、自分で期間や関わり方を制限するのではなく、もっと長い視野でこの国のことを考えてみようという気持ちになりました。また来年もツアーに参加したいと思います。この度は本当に有難うございました。

青年海外協力隊　村落開発普及員　牛嶋久子さん

モンゴル GNC のエコツアーに参加させて頂き誠にありがとうございました。

エコツアーには部分的に参加をさせていただきましたが、ても有意義な時間を過ごすことができ、非常に大きな感銘をうけました。

特に、私が参加させて頂いたバヤンチャンドマニ村でのエコ教室、苗木畑見学などでは、地方における環境活動の新たな可能性を大いに感じることができました。エコ教室の後、参加されていた村の人々が自らロ々に環境の大切さや自分が抱えている環境にまつわる問題を話してくれました。これは、GNC の活動が人々の心にふれ、信頼を得ている証だと思います。私事ですが、私はボルガン県ブレグハンガイ村という人口約 2300 人の地方のとても小さな村に滞在しながらボランティア活動をしています。地方によって現状や置かれた環境は異なりますが、

予算が少ないことや立地の問題など複雑な事象がからみあい地方では大きな形をのこす援助を期待する声やまた地方に援助が来ない現状に対して諦めの声が少なからずあるのが現状です。そのような中で、村に今までも、これからも住み続けていく人々が自分たちの思いや悩みを等身大で語り、GNC と協力して何かをやりたい、応援したいと語られたことは GNC の活動が着火剤となって人々の心に火をともしていることだと感銘を受けました。また、一方通行でもなくお人好でもなく、共に敬い理解しあうということ、そして何よりも強い思いをもち活動をされている GNC の皆さまからモンゴルでボランティア活動をしている私自身の心にも大きな火がともされた素晴らしいきっかけとなりました。

来年も是非エコツアーに参加させて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。

GNCの活動に参加していきたいと思っています。

第 8 回エコ教室（ウランバートル）

18 学校・23 学校・108 学校・新モンゴル・音楽舞踊学校・エコロジー教育センター学校

- 実施日：9 月 9 日
- 実施場所：モンゴル国立大学エコロジー教育センター
- GNC 側：宮木・矢野・荻原・坂田・ナスカ・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ・タミル・ナサンバヤル
- 留学生：トゥメー・デギ・テゲシェー・デルメ

- 青年海外協力隊：篠崎・牛嶋
- 各学校から計 100 名（13 歳～15 歳）の生徒と先生方
- アニメ「木を植えた男」上映。 GNC 紹介。
- モンゴル国立大学教授（バトフー氏）によるレクチャー「モンゴルにおける環境問題」
- 在日モンゴル留学生会メンバーの話（日本での留学生活。）
- 植物園における作業（水遣り・木の実集め等）。日本の歌、合唱。

レクチャー「モンゴルにおける環境問題」

留学生によるおはなし

昨年の夏にはエコ植物園閉鎖の危機に見舞われましたが、無事乗り越えることができ、約束どおり　今年は、5 校より 100 名あまりの生徒の皆さんを迎えてのエコ教室を実施することができました。ただ、残念ながら、昨年破壊された井戸の復旧が遅れているため、植物園内の植物はかなりダメージを受けた状態のままでした。今後は新たな井戸の発掘をはじめ、原生植物の植樹などを進め、見学、作業実習場所としてより充実させていく予定です。

GNcJapan　スタッフ

エコロジーセンター職員

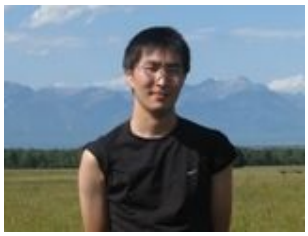
温室見学

水遣り作業

木の実集め

参加留学生の感想

トゥメーさん （横浜国立大学在学）



皆さん、こんにちは！
GNC の秋季エコツアーでの思い出や経験したことをぜひ皆さんに伝えたいと思います。私の今までの GNC との関係は主にハワリンバヤルの実行委員会での行動だったが、今年初めて GNC の活動に参加したのです。
久しぶりに母国に帰って、家族や友人と会うと、あっという間に過ぎる楽しい時間

がほとんどですがが、エコツアーも私の夏休みの一つのハイライトになりました。私が参加したのが 2 日だけですが、できたことと学んだことはたくさんありました。

9 月 8 日　モンゴル国立大学　生物学部森林学科演習林視察(トゥブ県バットスンブル村)
「共存」の視察
　ウランバートルを 60 キロ離れた山の中で、生物学部の学生たちが自分で作ったキャンプに生活し、先生の指導を受けながら夏休み中現場で学んでいるのを見てとても感動しました。私は植林だけではなく、「人と自然との共存」ができているのと、将来にモンゴルの環境活動の核になる人材が育てられているのを見ました。また、人々が国境を越えて信頼のネットワークを作っている「人と人の共存」も見られたのです。GNC はさすがに、Global Network for Coexistence という名前通りの活動をしているなと感じました。
　見学中、GNC のスタッフや先生のバータルビレグ教授から実施中の仕事から現代の環境問題までいろいろな面白い話を聞き、自分の視野を広げるチャンスになったと思います。
　昼、学生たちが作ったキャンプの中でみんなで晴れた天気を楽しみながら外で昼ごはんを食べて、リラクスしました。馬乳酒は最高でした。バータルビレグ教授と学生たちの説明や話を聞き、実現している仕事を現場で見ると、彼らの取り組んでいる仕事に対する高いモチベーションが感じられ、私の環境活動への関心が高められたのです。一本の木を植える時の大変さ、でも努力すれば木を植えることが可能であることを実感できた機会になりました

9 月 9 日　モンゴル国立大学エコロジー教育センター
「共存」の実施
前日は自分が学ぶだけの日だったが、その日私の話す順位となりました。私に新しい世界を開く機会となった留学の経験についてぜひ後輩たちに話してあげたいという意義がいつもあったのでわくわくしてエコロジー教育センターへ歩いていました。
　午前に GNC のスタッフやえらい先生たちが良い話をしたので、続いて話すに緊張していました。しかしプレゼンが始まると子供たちが非常に注意しながら話を受け入れ、積極的に質問していたのでとても嬉しかったです。モンゴル語で発表する機会がほとんどないので、生徒たちに話をすることによって私にとっても勉強になったと思います。私に与えられた留学のチャンスがより多くの後輩たちにも与えられるに、自分のできる限り貢献していきたいと考えています。GNC エコツアーは私にとって楽しくて良い経験になったので今後もこのような機会が与えられたら参加していきたいと思います。皆さんも、きっと良い経験になると思うのでぜひぜひ参加してみてください。よろしくお願いします。

デーギーさん（写真左）　一橋大学・3 年生

私は今年の GNC のエコツアーに参加することができて、新しく学んだこともあれば、いろいろ楽しい思いでも作らせていただき、本当によかったなと思います。ますます砂漠化されている母国のモンゴルで GNC の皆さんが長年活動を続け、いまや子供たちを中心とした大勢のモンゴル人の自然に対する愛情を呼び起こすように活動の幅を広げています。10 年前に植えた木も伸び伸びと大きく育つとともに、去年植えたばかりの何千か本の苗木もまるで GNC が子供たちに対して行っている環境保護の教育のように大事にされていました。
GN の活動の影響で子供たちが木を植えたい気持ちになっているのを聞いて、私は何より嬉しかったです。木を植えるばかりではなく、大きく育つまでのお世話をするために何か月間山の中でキャンプするモンゴル人の大学生たちもいました。
　それから、GNC と長年付き合ってきたツォゴーさんの農業技術を見学させていただき、感動するばかりでした。モンゴルの土が農業にふさわしくないと思っていた自分が大きく間違っていたことに気が付きました。ツォゴーさんの畑ではジャガイモやキャベツなどモンゴル人がよく食べる野菜だけではなく、それらと並んで日本の野菜もたくさんの種類を揃えて作られていました。経済的なの視点から見ても、農業はモンゴル人がやっていて有益なものだと感じました。

夏休みに自然環境の中で GNC の皆さんと過ごしたエコツアーの数日間は新しい出会いと楽しい思いででいっぱいでした。GNC の皆さん、ありがとうございました。

108 学校 訪問 2008 年 9 月 4 日

- 訪問日:9 月 10 日
- GNC:宮木・矢野・荻原・坂田・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ・タミル
- 青年海外協力隊:篠崎・近藤
- 108 学校(モンゲニ学校):ルハグヴァ校長、先生方
- GNC が 2005 年より支援してきた GNC ラボ(環境教育専用の教育施設)のオープニングセレモニー。2010 年にはモデル環境授業を共に実施することを約束する。軌道に乗ったら各学校の教職員の見学も呼びかける。

完成した GNC ラボ((環境教育専用の教育施設)

構内&周辺地域緑化のための育苗実習コーナー

オープンセレモニー

歓迎コンサート

GNC モデル農場での意見交換会&懇親会

- 実施日:9 月 10 日
- 留学生へ向けて、これからのモンゴル人のありかたについてツォゴさんが語る。
- 農場見学。
- 2010 年からは、意見交換会をより充実させることにする

ツォゴーさんより 農場内施設の説明

ハウス内 見学

ハワリンバヤル 2009 出展

５月３日４日とハワリンバヤルが東京練馬区光が丘公園で開催されました。
今年は朝青龍・白鳳・日馬富士の３力士が参加で特に人出手が多く、天気にも恵まれ大盛況でした。
留学生会製作のハワリンバヤルのオリジナルグッズの販売と、勿論　GNCの活動を広める役割を充分に果たせたと満足しています。

何年かぶりの対面できた方、初めて訪れて植林に興味をもってくださった方、募金箱にお金を入れて「頑張ってください」と声をかけてくださる方・・・GNCブースは粛々と　ハワリンバヤルに確固たる地位を築いています。多くの皆様が快くお手伝いを引き受けて下さいました。

みなさま本当に有難うございました。

GNC 活動説明

オリジナルグッズ販売

朝青龍・白鳳・日馬富士の3力士がステージに

江の島アジア映画祭出展

GNCは 2 月 7 日（日）「江ノ島アジア映画祭 2010」モンゴル国の旧正月”ツァガーン・サル”を祝うイベントに出展しました。モンゴル衣装体験コーナー、ファッションショー　馬頭琴演奏　モンゴルドキュメンタリー映画「プージェ」上映とモンゴルを満喫できる一日でした。また GNC 展示コーナーへも　たくさん方々に御越しいただきました。
今後に繋がりそうな確かな手ごたえもあり　充実した一日でした。

GNC 展示コーナー

GNC スタッフも民族衣装体

第９回NGO合同研究&活動報告会

開催日時：2009 年 6 月 13 日（土）13：30～16：30
【発表団体】

一般社団法人　地球緑化クラブ　（発表者：原　鋭次郎代表）
活動地：中国内モンゴル自治区クブチ沙漠
E-Mail: office@ryokukaclub.com　http://www.ryokukaclub.com

内モンゴル沙漠化防止植林の会 （発表者：B. セルゲレン代表）
活動地：中国内モンゴル自治区ホルチン沙地
E-Mail: info@shokurin.com http://www.shokurin.com

GNC Japan （発表者：宮木 いっぺい代表）
活動地：モンゴル国
E-Mai :mail@kyouzon-gnc.com http://www.kyouzon-gnc.com

第 9 回 NGO 合同研究＆活動報告会を終えて

GNC 代表 宮木いっぺい

例年、「内モンゴル沙漠化防止植林の会」と「地球緑化クラブ」との、NGO 合同研究＆活動報告会は、12 月から 3 月の間に実施してきましたが、今回は、3 団体のスケジュールの関係で、6 月に実施することとなりました。1 年半ぶりの再会ですが、気心がしれているだけに、久しぶりという感じすらしませんでした。聞くと、両代表のセルゲレンさんも原さんも同じ気持ちだったようです。

3 団体は、目指しているものが同じためか、不思議と、毎年同じような問題にぶつかりそれを解決するために模索しています。そのため、1 年に 1 回集まった時、お互いにきわめて具体的なレベルで有益な情報交換ができますし、勇気付けあうこともできます。

例年と違い今回は、ゲスト講師をお呼びせず、お互いの活動報告と意見交換をじっくり行いました。「板橋モンゴル孤児支援の会」の方々、「在日モンゴル留学生会」のメンバー、今回初参加の東京外大モンゴル語科の女子大生も加わって充実した時間を過ごすことができました。

今回は、企業、ビジネスとの関係性をどう築いてゆくかが主要なテーマとなりました。低炭素社会が目指されている中で、企業の CSR 活動の一環として僕らのような活動をしている NGO への企業のアプローチが飛躍的に増えてきています。そのこと自体はもちろん歓迎していますが、対応の仕方を誤ると、社会的な信頼を失ったり、現地で責任ある活動が出来なくなる可能性も出てきます。今は、何が最善か試行錯誤している真最中です。

面白いのは、同じ問題に対して、3 団体の対応の仕方が三者三様だったことです。そこには、3 団体のキャラクターが見事に反映していたように思います。例えば、GNC のキャラクターを、職業で表現するならば、「教育者・教師」といったところでしょうか。どんな場合でも、「一緒に学びあい」「人づくり」をするという姿勢がベースにあります。

活動報告会が終了した後は、皆が持ち寄ったおいしい料理やデザート、飲み物を並べて、懇親会。話がさらに弾みます。そして、例年、そこで新たなネットワークが築かれ、また新たなアイディア・企画が生まれたりします。1 年後再会したとき、それぞれどのような方向に進み、どのような報告をすることになるのか、今から楽しみです。

2010 年三宅島スタディーツア下見

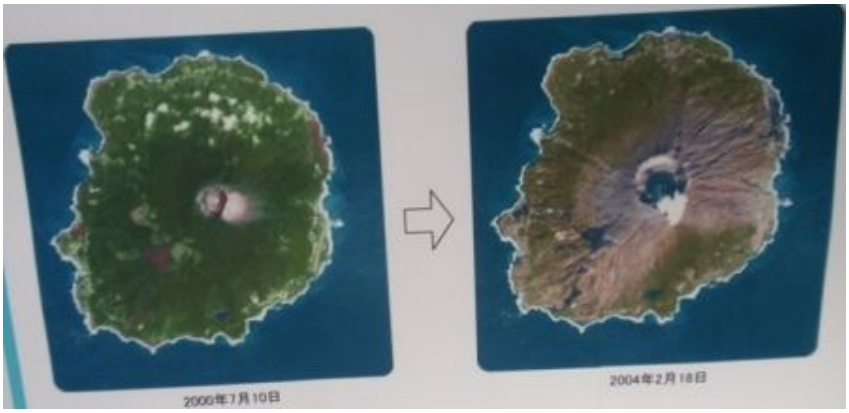
日時：2010 年 2 月 11 日（木）～2 月 13 日(土)

【GNC 三宅島スタディー下見ツアーの目的】

①GNC スタディーツアーの打ち合わせ

・モンゴル国留学生達に三宅島で行われている緑化活動を知ってもらい、モンゴル国・日本国での緑化を担ってほしい。

②三宅島の島民や緑化に携わっている人達との交流。
③三宅島の噴火の歴史、2000 年大噴火の被災状況を知る。
④植林候補地の視察。



左側が 2000 年　噴火前、　右側が 2004 年　噴火後。

写真左：三宅村役場　鎌田さんとの GNC スタディツアーについての打ち合わせ

写真中央：三宅村森林組合事務長　守屋さんのお話し　現場から見える事の重要性に GNC スタッフ達は耳を傾ける

写真右：2000 年大噴火による森林への被害。

テーマサロン再開　第 1 回（2 月 24 日）・第 2 回（3 月 25 日）

2010 年 2 月 24 日　長いこと休眠していましたテーマサロンが再開しました。講師は　ベトナムを始め東南アジア諸国で長期にわたり勤務され、さまざまなプロジェクトに取り組んでこられた三瀬　惇氏。ベトナムについての数回シリーズの初回は《ベトナムの見方》《ベトナムの社会と文化》《ベトナムの領土拡張　―　南進》などをテーマに現地での体験に基づいた興味深いお話をしていただきました。初めて知るベトナムという国

の興味深いお話にみなさん熱心に耳を傾けています。次回第 3 回は、6 月 24 日の予定です。

森づくり事業

モンゴル国立大学 生物学部森林学科演習林視察 2009 年よりスタートした新たな森づくりです。

- 視察日:9 月 8 日
- モンゴル国立大学:バータルビレグ教授(森林学科長)、学生
- GNC:宮木・矢野・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ
- 在日モンゴル留学生会:デギ・デジェ・テゲシェー・デルメ・トゥメン
- 2009 年より国立大学所有の土地 5ha(トゥブ県バットスンブル村)に 1 万本の植林を実施する。
- バットスンブル村との協働の可能性あり!

専門家による植林地モニタリング調査

- 調査日程:9 月 16 日～9 月 26 日
- 各植林地 モニタリング調査
- GNC Japan森林再生担当 尾上
  GNC Mongolia バットアムガラン バットゾリグ ツォゴー
  セレンゲ県森林動物センター長 ジャムスレン

写真は 2004 年植林地での調査の様子　　植林実施者 ジャムスレン氏(写真左)　　植林後 5 年半経ったアカマツ

2009 年度植林実施日 4 月 21 日～5 月 21 日
植林地:モンゴル国　植林樹種:ヨーロッパアカマツ(学名:Pinus sylvestris)
セレンゲ県
スフバートル周辺 トジンナルス
愛・地球博 「日・モ友好の森」 再植林中
シャーマル村周辺
株式会社KSGインターナショナル　40000 本 15ha
SOTO禅インターナショナル　25000 本 10ha
エコフィン特約葬儀社(48 社)　41000 本 15ha

トライウォール株式会社　　30000 本　10ha
鈴木喜一郎さまメモリアル　　10000 本　　5ha
作業
ジャムスレン氏（セレンゲ県森林動物センター長）
オトゴンバット氏（セレンゲ県森林調査センター職員）
アルタンボラグ村&シャーマル村の住民・学生約 100 名

→

写真はモンゴル国セレンゲ県トジンナルスでの森林再生事業
左：2004 年 5 月植林スタート時　右：2009 年 9 月撮影

中央県
バットスンブル村（モンゴル国立大学演習林内）
　緑の募金中央事業　　5000 本　2.5ha
　「鈴木喜一郎さまメモリアル」　　5000 本　2.5ha
作業　バータルビレグ教授（森林学科長）及び　森林学科学生
バヤンチャンドマン村周辺
　グリムス運営チーム　　5000 本　2.5ha
　株式会社みづま　　5000 本　2.5ha
　緑の募金中央事業　　10000 本　　5ha
作業　バトアムガー（GNC モンゴル専門家）
　　バヤンチャンドマン村民約 20 名

GNC植林
2009 年度　新規植林総計　　14 万 6000 本　60ha
2004 年～通算　　52 万 2000 本　182.5ha
トライウォール社「エコフィン生命の森」（GNC が協力している森づくり）
2007 年～通算　　9 万本　　30ha
鈴木喜一郎氏メモリアルの森
2009 年　　1 万 5000 本　　7.5ha

今後の企業との緑化活動支援

2009 年からは　新たな企業がGNCの緑化活動に賛同され　ご支援をいただくようになりました
◆GNC 緑化事業への協力企業&団体
＊　GNC 緑化活動支援企業
　・ラウル株式会社　　環境ビジネスコンサルティング　　2010 年～
2010 年よりは株式会社みづまより　正式にご支援頂く予定です。

＊　GNC 共存の森づくり支援企業
・（株）KSG インターナショナル　e-denpo　1 通の電報が森をつくる　　2008 年～

・SOTO 禅インターナショナル（SZI） 塔婆供養で植林支援　 2009 年～
2009 年 6 月には 事務局長の亀野様はじめSZI関係者 3 名が 現地視察されました。

＊GNC 生命の森づくり支援企業
・全国エコフィン特約店 全国北海道から沖縄まで のべ 78 社　　2008 年～

◆モンゴル国で独自の森づくり実施企業＆団体
（GNC は植林実施のお手伝いをしています。）
・トライウォール株式会社　（エコフィン生命の森づくり ）　2007 年～

苗畑づくり事業

トゥブ県バヤンチャンドマン村苗畑

- 視察実施日：9 月 7 日
- GNC：宮木・矢野・荻原・坂田・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ・タミル
- 留学生：テゲシェー・デルメ
- 青年海外協力隊：篠崎・牛嶋
- 村民・子どもたち
- ハウスを見学。井戸・点滴散水装置は順調。
- 苗畑事業をGNCモンゴルの活動のための資金調達の軸にする方針。まず安定的に生産できる体制をつくった上で、販売を本格化する方針。

ハウス内での苗木栽培

新たに導入した点滴散水装置

2009 年は手作業で行ったが、来年は 作業時間短縮のため 中古トラクター購入を検討
栽培品種は　ノニレ　ムレスズメの一種　クロスグリ（カシス）　チャツァルガン　ポプラなど

緑あふれるまちづくり事業

トゥブ県バヤンチャンドマン村　村役場訪問

- 訪問日:9 月 7 日
- バヤルネムフ村長、バグ長 2 名
- GNC 側:宮木・矢野・ツォゴ・牛嶋
- 村の現状についてヒアリング(3 つのバグについて)。
- 2010 年から村内緑化を行うことを決定する。村長、および2人のバグ長がやる気十分！具体的な内容については GNC モンゴルを通して今後つめることにする。

写真右端　今年　就任したばかりのバヤルネムフ村長　　手渡されたこの村のMAPが将来、新たなモデル緑化村MAPに・・

モンゴル国立音楽舞踊学校訪問

- 訪問日:9 月 11 日
- 音楽舞踊学校:担当教員エルデネチメグさん
- GNC:宮木・矢野・荻原・坂田・ナスカ・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ・タミル
- 青年海外協力隊:牛嶋
- キャンパスの見学・レッスン室見学
- 庭園づくりの休止と新校舎づくりの経緯と今後の方針について説明を受ける。
- GNC としては、その説明に納得し、新校舎建設後の校内緑化に対する協力を約束する。ただし、小規模な校内緑化支援は継続する。

担当教員エルデネチメグさん　子供たちと「この水溜りは　きっと切り倒された樹木の涙なんだね」と話しているそうです。写真のような美しい庭園づくりが進んでいましたがのでとても残念なのですが、新校舎建設後、新たに裏庭での庭園づくりと　校内緑化を検討していく予定です。

モンゴル国立大学　エコロジー教育センター訪問

- 訪問日：9 月 9 日
- ツォグバダラフ教授（センター長・生物学部長）、職員
- GNC：宮木・矢野・ナスカ
- 今後のエコ教室のエコロジー教育センターでの実施継続を確認する。
- 昨年夏の閉園の危機を乗り越え、今後の井戸掘りの支援を含め、エコ植物園の維持管理支援を約束する。

看板

本植物園は日本の市民の皆様の募金(緑の募金)と NGO　GNC　Japan の支援により 2005 年9月開園しました。モンゴルに原生する全ての植物を保存し、 モンゴルの植生に関する貴重な情報を発信し、学校教育へ貢献していくこと、と同時に市民の皆様の貴重な憩いの場となることを目的としています。現在までに 32 種類の 3000 本あまりが植樹されています。

農場づくり事業

ウランバートル市郊外トーラ村モデル農場

今後 GNC との協働事業としては

- 農場内での苗木栽培を充実させる
- 農場内の防風林（ポプラ　ニレなど）の植林継続
- 苗木の十分な生長、確保が見込まれる 3 年後くらいより　農場周辺の畑の防風林作り、トーラ村の緑化支援事業を計画している

とても水々しくて、甘い　ツォゴーさん自慢のキャベツ、　大きなかぶ、スッキーニ、キュウリ、ラディッシュを収穫して　合宿中のサラダや酢の物に！

2000 年 GNC が　初めて植林したポプラ。　　ポプラの挿し木栽培

モンゴル国教育文化科学省より表彰状をいただきました。

2009年12月18日、 駐日モンゴル国大使館にて、日本・モンゴル文化交流取り極め35周年を記念して叙勲式、表彰式が行われました。GNC　Japan （矢野明子） に　長年の　ハワリンバヤル、留学生会のサポート　GNCエコ教育活動などの功労に対して、訪日中のG. ザンダンシャタル外交通商大臣より　表彰状が授与されました。

表彰状

第 4-2009/181 号

矢野明子殿

貴殿の文化芸術発展への寄与を評価し、

モンゴル国教育文化科学省より

表彰状授与する

モンゴル国　教育文化科学大臣

Yo. オトコンバヤル